**「ラーマクリシュナの福音」勉強会　第９９回　（２０２４年１月３０日）**

**・勉強範囲：「第四章　在家の人への助言」４８頁**

**～　　❀　　～　　❀　　～　　❀　　～　　❀　　～　　❀　　～　　❀　　～**

**📖４８頁下段　１２行目**

**師（喜んで）「……彼のお慈悲がなければ心の疑いは消えない。自己の自覚なしには疑いは消えないものだ。**

**（解説）**

ここでシュリー・ラーマクリシュナは「疑いが消える条件は神の恩寵（神の慈悲）である」と言い、「疑いが消える条件は自分の本性を理解（Self-realization）することである」と言っていますね。「神の恩寵がなければ悟れない」と言っているのに、その後すぐ「自分で瞑想したり識別したり霊的実践をしなければ悟れない」と言っています。私は前回のクラスの最後で、相反する2つのことを言っているようだが真意は何だろうかと問いかけました。

これの解釈は、「神の恩寵がなければ悟れない。だが努力しなければ恩寵はない」です。つまり、「神の恩寵ですべて叶うのなら霊的実践はしないでよいという態度では、神の恩寵は得られない」ということです。神の恩寵は私たちのあずかり知れぬことであり、「○○したら貰える」という種類のものではありません。恩寵については神のみぞ知ることです。

**（解説）「疑い」について**

では、シュリー・ラーマクリシュナが言っている「疑い」とは何でしょうか。それは「混乱」と言い換えてもよいですが、何についての疑いや混乱なのでしょうか。シュリー・ラーマクリシュナは悟れば疑いは消えると言っているので、世俗的なことについての疑いではありませんね。どのような疑いでしょう？

［参加者が答えたものを簡略化して掲載します］

参加者：自分の本性は何か？

参加者：神がいるかどうか？

参加者：神を見ることができるかどうか？

参加者：どのようなプロセスで人のエゴが生まれたのか？

参加者：この世界は本当に存在しているのか？　この世界を誰がなぜつくったか？

参加者：神は形があるかないか？

参加者：神の悟りの道はバクティ・ヨーガかカルマ・ヨーガかギャーナ・ヨーガかどの道か？　皆にはどの道が良いのか？

参加者：神がいるなら、なぜこの世に苦しみ悲しみ災いがあるのか？

参加者：神が遍在ならなぜ見ることができないのか？

「神がいるかどうか」はとても普通の質問です。多くの人は「神はいない」と考えているのですから、「神は像だけのものか？　それとも本当に存在するのか？」というのは基礎的な混乱です。シュリー・ラーマクリシュナは、「マザー・カーリーはただの石像か、それとも本当に存在しているのか？」を確認するために、１２年位霊的実践を行いました。科学者も、対象は世俗的なものですが、疑問が生じなければ調査や実験はしないでしょう。それと同じように、信者も霊的なことに対しての疑問・質問が自分の内側から浮かんでこなければなりません。聖典を勉強しているけれども疑問も質問もない、ということでは勉強は深まりません。

「疑い」は、シュリー・ラーマクリシュナはベンガル語で「サンデハ」と言っていますが、サンスクリット語では「サンシャヤ」です。

（板書）Sandeha　Saṃsaya

サンスクリット語の有名な句に、次のものがあります。

*ヴィッディヤテー　フリダヤ　グランティ*

*チッダンテー　サルヴァ　サンシャヤハ*

*クシヤンテー　チャッシャ　カルマーニ*

*タスミン　ドゥリシュテー　パラーバレ*

（意味）ブラフマンを悟ると３つの結果を得る。１つ目は、心の中の結び目（それはギャーナとアッギャーナ、ヴィッディヤーとアヴィッディヤー、知識とマーヤーの結び目です）が切られてほどける（両者を超越して悟ります）。2つ目は、すべての疑い（＝*サルヴァ　サンシャヤ*）が消える。3つ目は、すべてのカルマとカルマの結果が消える。

カルマとカルマの結果が消えるのは分かります。また結び目のことも大体分かります。では、悟りの結果消える疑問とは何か、分かりますか？　求道者はその疑問を具体的に理解しなければなりません。それが今日のテーマです。

**「神はいるか、いないか（アートマンがあるか、ないか）」という疑問**

これは基礎的な疑問です。神がいる（アートマンはある）と主張する人たちと、神を全く信じていない人たちもいますから、この混乱があるのは当然です。

**「神は実在しているか、想像の産物か」という疑問**

神はいないという人たちは、神は想像に過ぎないと主張することもあるでしょう。そのときこの疑問が生じます。

**「神がいるなら、神は形があるのか、ないのか」**

無神論者はここから先の疑問は生じないでしょう。ですが神はいると考える人の場合、神の形について、疑問や混乱が生じます。神はシヴァ、ドゥルガー、ガネーシャ、ナーラーヤナ、ヴィシュヌ、どの姿なのか？　神は男性なのか、女神なのか、それを超越したものなのか？　キリスト教のアイディアは男性です（フェミニズムが台頭した頃、キリスト教においてもなぜ神は男性でなければならないのか、という問いかけがありました）。インドでは両方です、またブラフマンは性を超越したものです。

**「神がいるなら、どこにおられるのか」**

神がもしいるならどこにいるのか、居場所はどこか、空の上か、天国か、地上にいるのか、地上にはいないのか。3つの意見があります。まずキリスト教のアイディアは、神は天国におられ、高い場所をイメージします（天国のイメージが上、地獄のイメージが下というのが普通のイメージです）。別の考えに、神は自分の中にいる、というものがあります。また別の意見は、神はあらゆるところにいる、というものです。するとそれらのどれが正しいかと疑問・混乱が生じます。

**「神がいるなら、なぜ見えないのか」**

もしあらゆるところにいるなら（たとえばブラフマンがそうです）、どうして見えないのでしょう？　その質問も生じるでしょう。

**「神の本性は何か」（What is the real nature of God?）**

次の質問は神の本性についてです。神は全能ですか？　遍在ですか？

**「神は親切か」（Is God compassionate?）**

自然災害でたくさんの人が亡くなります。中には悪い人もいて、その人は過去に悪いことをしたからカルマの法則で亡くなったと納得できたとしても、「なぜそんな目に遭わなければならないのだろう」という種類の良い人や赤ちゃんもいます。すると、神はなぜ守ってくださらないのかという疑問が生じるでしょう。ヴィッディヤ・シャーゴルに、その疑問がありましたね。神を信じる人、神は全能で親切だと信じる人にはその疑問・混乱がありませんか？　神を信じない人にはこの質問は浮かびませんが。

**「神に祈りは聞こえているのか」**

神を信じる人は、神に願いを満たして欲しいと願いを祈ります。世俗的な願いもあれば、霊的な祈りもあります──神様、私はエゴをコントロールしたい、怒りをコントロールしたい、感情をコントロールしたい、神様助けてくださいetc.　「こんなに一生懸命祈っているのになぜ同じ問題が続くのだろうか」と思うとき、神の耳は働いているのだろうか、神に祈りは聞こえているのだろうかと疑問が生じます。

**「神を見ることはできるのか。見ることができるならどのようにして見るのか」**

神を見る、神を悟る方法はラージャ・ヨーガ、カルマ・ヨーガ、ギャーナ・ヨーガ、バクティ・ヨーガ、クンダリーニ・ヨーガ、ハタ・ヨーガなど色々あります。バガヴァッド・ギーターの１８の章は１つ１つがヨーガ（悟りの道、方法）ですが、そのように悟りの方法がたくさんありますからどれが正しいのか、という混乱も生じます。１つだけなら混乱は起こりませんが（キリスト教のメインの教義は祈りです。それ１つなのでこの混乱はないと言ってよいでしょう）。ですがヒンドゥ教には悟りの道がたくさんあるので、その中のどれが正しいのか、それとも全てが正しいのか、自分にはどの方法が良いのか、という霊的な疑問・混乱が生じます。

**「悟った人のしるしは何か」**

口ではどのようにも言えるので、「私は悟ったグルです」と広告する人もいます。そのとき、何が証明となるのだろう、という混乱が生じます。バガヴァッド・ギーターの第２章には悟った人（スティタ・プラッギャー、字義は「知識が安定した人」）のしるしが明記されていますし、１４章にもグナーティタ（字義は「グナを超越した人」）の説明があります。勉強した人は分かっても、勉強していない人はこの疑問が生じます。

**「アヴァターラとは何か」**

アヴァターラは神の化身で、インドではとても普通の概念です。またキリスト教もイエスを「Son of God」（神の息子）と考え、イスラーム教ではムハンマドを「the Last prophet」（最後の預言者）として崇めます。ですが日本人にはこのアイディアは馴染みがありません、なぜなら自然を神と見なし、先祖を礼拝してきた伝統がありますから。日本でアヴァターラというと天皇があてはまるのかもしれませんが、よく理解できない人にはアヴァターラについて説明しなければなりません。ヒンドゥ教の聖典の考えでは10人の化身がいます、またバーガヴァタムの中には２４の化身が出てきます、シュリー・ラーマクリシュナは「数えきれないほどの化身がいるし、未来にも出現する可能性がある」と言っています。すると「アヴァターラとは何か」「いったい何人いるのか」という疑問や混乱が生じる可能性があります。

**「神を悟るための条件は何か」**

神を悟るための条件は何か、悟るために何をしなければならないのか、という疑問も生じます。

**「聖典が言う事のどれが正しいのか」**

たとえば、ヒンドゥ教の聖典とキリスト教の聖典とイスラーム教の聖典の言う事が違う場合、どれが正しいのかという疑問が生じます。また同じヒンドゥ教でもある聖典と別の聖典で異なることを言っている場合があり、するとやはり同じ疑問が生じます。信者はときどき混乱しています、バーガヴァタムの言う事とバガヴァッド・ギーターの言う事とウパニシャドの言う事とプゥラーナの言う事の、どれが本当は正しいのか……。シュリー・ラーマクリシュナは「聖典の中には砂糖の粒と砂の粒があります。よく区別してください」と言っていますが、それは簡単ではなく難しいことです。たとえばラーマーヌジャの注釈とシャンカラの注釈が異なる場合どちらが正しいのか、非二元論的注釈と限定的非二元論的注釈のどちらが正しいのか、ギーターのある1つの節について哲学者が異なる注釈を述べているときどのように理解したらよいのか、と疑問・混乱が生じます。

**「なぜ神の悟りが必要なのか」（Why should we realize God?）**

『ラーマクリシュナの福音』では何度も「神の悟りが人生の目的」という助言がでてきますが、「なぜ神を悟らなければならないのか、無神論者たちは悟りの必要を感じていないのになぜ私たちは悟るべきだと諭されるのか」という基礎的な疑問が生じます。霊的な話を聞いて悟りたいと思っても、この疑問が解決されなければやる気が続きません。ムムクシュットワ（悟りたいという願望）が内から生じないと、霊的実践をするやる気は出ません。人々は「有名な学者になりたい」「お金をたくさん稼ぎたい」「有名な歌手になりたい」「オリンピックでメダルを獲りたい」など様々な大望を抱きます。そしてその目標のために努力をします。しかしラーマクリシュナは『福音』の中で何回も何回も言っています、「バガヴァーン　ラヴィ　ジヴォネ　ウッダッシャ」（単語を直訳すると、「神様　悟る　人生　目的」です）、「神の悟りだけが人生の目的です」と。ですが普通の人々の人生の目的は名声やお金などで、シュリー・ラーマクリシュナの言う事とは異なります。さて、この質問の答えはあなたの中でクリアになっていますか？　それを内省してください。なぜ、人生の目的が家族やお金ではなく、神を悟ることなのでしょうか？　しかし今は分からなくても、私たちは『福音』の勉強を続けてこのことを問い続けています。

『福音』を勉強するとき、質問が中から出ないといけません、たとえばなぜシュリー・ラーマクリシュナはそのようにおっしゃっているのかと。そうでなければ『福音』を深く、真剣に勉強していることにはなりません。私たちは問い続けなければならない、質問が中から出てその質問の答えを本当に理解しなければならない。あるいは質問の答えのために、お坊さんに尋ねたほうがいい。

私が言いたいのは、浅い信者だったらその種類の質問は何もでないということです。ちょっと儀式をして、ちょっと祈って、それで終わり。ですが深い信者、つまり本当に霊的な生活を欲する信者だったら、本当に霊的実践をしたいなら、この種類の質問や疑問が中から出て、質問の答えを探さなければいけない、疑問を解決しなければいけないです。そのために私は説明しています。

**「私は誰か」**

私は肉体か、心か、知性か、すべて合わせてか、それとも全く別のものか。その答えがもしアートマンだったら「アートマンの本性は何か」など、「私は誰か」を探求していくと多くの質問が生じます。

**「神と私との関係は？」**

**「神はどのように宇宙をつくったのか」**

**「なぜグル（霊性の師、先生）が必要か」**

ヒンドゥ教は「グルが必要だ」と言っていますが、なぜ必要なのか。それに関連して、なぜイニシエーションが必要なのか。そもそもイニシエーションとは何か。どのような勉強にも先生が必要です。インターネットで調べただけですべてＯＫだったら、なぜ体調を崩すと病院の先生のところに行くのでしょうか。インターネットだけでは病気は治らないからです。同じようにどのような勉強にも先生が必要であり、それは霊的なものについても言えるのです。

たとえばバガヴァッド・ギーターを独自に勉強するといろいろな疑問や混乱が出てきます。「アートマン」という言葉が、ある節では肉体と心を合わせたものとして使われていたり、純粋な意識という意味で使われていたりするのですが、先生に就かずに翻訳だけ読んでいても、それを理解できないのです。そしてギーターの勉強をあきらめてしまう場合もあります。ですが先生と一緒に勉強すればギーターの深い意味を理解することができます。

霊的実践も同様です。ヨーガの道はいろいろあり、マントラもいろいろあります。それをインターネットで調べることはできても、「何のマントラが私にふさわしいのか」を説明してくれるのはインターネットではなくグルです。そうせず好きなマントラを一カ月唱えたとしても、あまり助けにはならず、問題がまた起こります。

以上、いろいろなことについて私たちには霊的な混乱があります。しかし悟ればその混乱疑いはすべてなくなります。

次のクラスではホーリー・マザーの例をお話します。

**（賛歌奉献）**（映像データの１：３９：１８頃）

トゥミ　ブラフマ　ラーマクリシュナ　トゥミ　クリシュナ　トゥミ　ラーム

**（Q＆Aより抜粋）**

**Q）**私は「神の目的は何なのか」という霊的な質問があります。

**A）**神の目的は「神の悟り」ということもありますけれども、「神は遊びが好き」ということもあります。もしあなたが遊びたくないなら、「神様、私はたくさん遊びましたからもう遊びはいらない」と神に言ってください、「もうやめたい」と言ってください。それがムムクシュットワ、解脱の願望につながっていきます。ですがまだ遊びたいなら遊んでください。

あるいは──スワーミー・トゥリヤーナンダジーは「生きている間に解脱の経験をするために人間として私たちは生まれた」とおっしゃいました。本当に、人生の目的はそれです、聖典の中にもあります。たとえば亡くなった後の解脱というアイディアがあります（それをヴィデーハ・ムクティと言います。ヴィデーハはデーハ（からだ）が無いという意味です）。もうひとつ、生きている間に解脱するというアイディアもあります（ジーヴァン・ムクティと言います。トゥリヤーナンダジーはそれを聖典で学んで「なぜ私が生まれたか、いまはっきり分かった」と喜びました。なぜ人間として生まれたかは遊びのためではなく、霊的な目的のためだと理解したからです。亡くなったあとに解脱できるかできないかは分からないではないですか？　だったら生きている間にその経験をしたほうがよいでしょう？　それはすごい目的、すごい考えではないですか？　一番いいではないですか、生きている間にその経験！　神の味、Taste of God！　「ジーヴァン・ムクティは人生の目的」だというヒンドゥ教のアイディアはとても良いではありませんか？　　　　　　　　　　　　　　以上